

◎ 訓練実施~9月16日(土)

訓練参加人員~80人 自治会会員参加名簿記入者~68人

- 指導·支援·視察(行政) 西原町~(総務部生活環境安全課職員) 東部消防組合消防本部(予防課・警防課職員) 浦添警察署(地域課・警備課職員)
- その他見学者 西原町社会福祉協議会 日本防災士会沖縄県支部

自主防災会結成後5回目の総合防災訓練

(平成24年~平成29年実施) 平成26年は、数度にわたる台風の影響で中止

訓練概要(1)

- 訓練は、自主防災会規定(防災計画)の
- 訓練は、自主い災会規定(防災計画)の「総合防災訓練」に基づき実施
 ○訓練内容
 日時 平成28年9月16日(土)18:00~20:00参加人員 ~80人(自治会会員及び関係機関、見学者)場所 西原台団地全域 台団地公園(児童公園)~遊難場所・コミュニティセンター・情報伝達訓練・選難誘導訓練・激出救護訓練(簡易担架の作成・搬送)・消火訓練

 - 秋日本 東京市 (1977年) 消火訓練 救急法 AED使用方法、胸骨圧迫法(心臓マッサージ) 避難所開設運営訓練(自前の避難所開設・運営キット使用) 給食訓練(アルファー米を使用、豚汁)

訓練概要(2)

訓練想定~

18:00 沖縄本島浦添市付近にある伊祖断 層がずれ、M6.9の直下型地震が発生した。

地震は、西原町で震度6強の強い揺れをもたらし、台団地の家屋の多くが被害をうけ、約3分の2が全半壊となる等大きな被害が出

住民の中には、崩れた建物に閉じ込められたり、負傷者も多く出た。

防災訓練準備作業の推進

7月から関係機関と調整 防災計画~8月に役員会承認~ 住民に 「自主防災会たより」でも8月、9月に通知

訓練班の割り付け

総務 情報伝達班 避難誘導班 救出救助班

給食給水班



防災計画書で事前広報(1)

	201	3834 (197)	学成29年9月16日(上)18:00~20:00 講練場所 西班の団地与 南田・西田の団地当園 (児童会園) 西田の団地自由会 ニミュニティセンター			01000
		304 di 50 di	HHAR MMG TELG	2000 W - 210	MINT, REMINING SEE, MINTERS	
	781	2004 (10)	 以気に対する征災の意識を高める。 2 地震その他の災害から身を守る遺跡な判断と逃避な打断を身につける。 前数、管理、行政当局と連携して行い、訓練を通して毛鉄造所や問題点、理解について指導を受ける。 			
		共聚核症	1860 労務本原施部計刊度にある伊健開催がずれ、マグニテュードもの直下型地震が楽土、地震は、発明で間在を他の他に傾れて、台 理能の家題的3分の2以上が全年減となる。住民の中には、維れた場際に関じ込められたり、負債者も出るなどの大きな被害を受けた。			
	81	[安全時報] (各家館で興奮)	①4分自身の中を守る(成まな机の下に身を指す、様を保護する。シェイクアのト) ②人元の確認、ガスの元符を削め、軌間、ブレーカーを切る、(物金)・呼称等で限める行動に代える)② 実施の変をを確認的まれば「資色1+年(過色7年(4)) を刊等に結ぶ」へ連携する。			
		*******	事業以前、訓練補助は対其無難使用(信贷への呼びかけ訓練はハンドマイク使用)に報内容として(訓練、訓練、再用 台田地の許久訓練です。資産6後の指い電質が発生、避難を呼びかける。			型具 発剤型は193K
		海知技术22米	(繊維の呼びかけ、平丸繊維の実施) メガホン。 <mark>※中様がを哲性して避難の呼びかけ・交通繁烈を行い家</mark> 治療に集合。			
	3/8 (6.6	が大力能を が取り出から加工を含め、水大型ボルカンの場合では、(東京部の上的地位) 取り表現 前は、未取 気持ちをは、大型、大型、大型、大型、大型、大型、大型、大型、大型、大型、大型、大型、大型、				
	26	通報所設計算録 (競員キット) 子どもタイズ	コミュニティセンター(自治会事務所)での資準所製設定所表謝を行う。 場合の通知性に排除るで使物的トラアージン、佐賀よども開設と必要素受け入れ、開発トイト等の季報 影響の設定的機能が発・子化も研究と開発とイギ			
1	81	交通整理等	防災資酬や、分配他内及び間は運搬での交通制	・程及び防災管域を実施	(个名。(新新新教育)	
	EN PH (4	初州州	表き出し時による味き出しにより、調確参加者に数か物を添えて食して食う。 適好他自由自有表示 質			,
		2 7	西京町、前店、警察の利息者から建設をいただ			





情報伝達訓練~ 前日の事前広報、当日の訓練開始等

◎波平会長~

防災無線の音声が小さいため、 自治会の広報マイクを使用して 事前広報、避難の呼びかけ等 情報伝達を行った。

◎各班長による避難の呼びかけ広報を行った。

避難誘導訓練~

- 災害時行動要支援者に見立てて搬送
- 避難行動要支援者をリヤカーで搬送



避難誘導訓練~集合時間を計測

- 早く到着した人~5分で避難所に到着 (受付時間)
- 〇 遅かった人は20分かかった。























今回の訓練の特徴2 ② 災害時の安否確認を容易にする方策~継続実施 賞色い布を家族が安全である場合に「門扉」や「玄関 先のノブ」等に目立つように結び付け、安全との表示。 安否確認、救出作業も効率的、効果的である。 訓練の成果・効果~実施率は昨年の8割に比べ今回は 50%と低調であった。 これまでは、自治会から黄色い布を配布していたが、今 回は配布なしで様子見であったこと等が低調の原因。 意識付けを継続する必要がある。

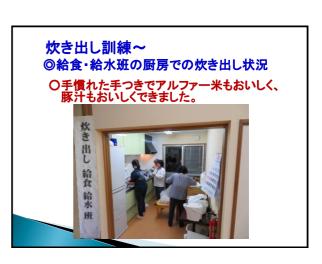
今回の訓練の特徴3

◎ 炊き出し訓練を自治会事務所(厨房)で実施

災害時の非常食アルファー米等の調達

昨年に引き続き総合防災訓練で厨房施設を使用 しての炊き出し訓練を行った。

役場からのアルファー米の提供のほか、沖縄県が備蓄してあるものからポットボトル入りの飲料水について 提供を受け、訓練参加者に配布した。



今回の訓練の特徴3

◎ 子どもを対象とした防災クイズの実施

台風、地震、津波、雷等についてのクイズを実施。 子ども会の多くの参加を見込んだが、夜間訓練と翌日が 運動会とということもあり、参加者は少なかった。







講 評 概 要(1)

◎ 西原町生活環境安全課講評概要

西原町での自主防災会活動は、他の自治会でも組 織がなされ、活動も活発化してきております。その 中でも西原台団地の活動は、先駆けて活動して、頼 もしく思われます。

会長以下の皆さんが、取り組んでいることは、他の 自治会の模範でもあり、大変評価されます。

○初めての夜間訓練でありましたが、これからも創意 工夫を凝らした訓練を期待します。

講 評 概 要(2)

•東部消防本部(警防課)~

- 〇 計画を立て、役割分担に基づいて各人が 行動しており、よかった。
- 〇 災害は、いつでも起こりうる。日頃からしっ かり備えを。自主防災会は、共助の中心的な 活動で、これからも活動の継続をお願いした い。
- 〇安否確認の黄色い布を門、玄関前に掲示す る意識づけは、ぜひ継続して続けてほしい
- 〇避難所開設運営キットを使用した訓練は効 果的でよかった。

講 評 概 要(3)

·浦添警察署~

- 自主防災会の訓練計画に基づいての訓練はよい。
- 初めての夜間訓練実施でしたが、今後も安全に配 慮した訓練の実施をお願います。
- 防災については、自助、共助、公助が言われます が、自治会については、コミュニケーション作りが大切 なことですので、しっかり隣近所のコミュニケーショ ンを図るのも大切なこと。
- ○訓練は、創意工夫を凝らして実施されていて、参加 住民の防災・減災の意識も高い。



よかった点

関から、「好評」の講評をいただいと協力の下、訓練を実施し、行政:一西原町、東部消防、浦添署の指 豚汁を作り好評であった。 来上がる実証を行ったこと。また、 中、昨年に続きご飯を短時間で出 は、昨年に続きご飯を短時間で出 訓練参加者に配布した。 ま近の飲料水について提供 沖縄県の防災備蓄で、 い、昨年には 体存食 ア 水~ 町

7―米」の提供を受け役場から災害時の 供を受け 、賞味

よかった点

ができた。与え、防災意識の高揚に繋げるこ

行動の参照にした。体の訓練状況を把握し、役員自らの をストラップで携帯して本人及び全 ズを実施した。 子どもたちの防災に対する知識

搬送を行い、効果的で有効であった による災害時避難行動要支援者の 折りたたみリヤカー(補助機材)

役員に訓練時のスキーム(時系列

よかった点





反省 · 教訓 ~ 意見等

て結束の必要性、意識の高揚を図下が懸念される。日頃の活動を通程度の結束率であり、防災意識の 原因は、翌日が子どもたちの運動会 大幅に減少した。 名簿)で、昨年の八〇人に比べると、 クで呼びかけた。 防災無線が一部不具合で聞き取 事前のイベントについての情報不足、 では、これらの教訓を生かして調整 調整不足があることから次回の訓練 するのを控えた等である。 とか、夜間訓練でちょっと訓練に参加 しっかり行う必要がある。 安否確認用の 黄色い布」が五 住民の参加者は、 自治会の広報マイ 六八人(参加記 ħ

反省·教訓~意見等



五 避難、 付け等多くの住民の参加がほしい。日本前準備設営、訓練終了後の後 念される。ために災害時には孤立することが懸また、普段のコミュニケーションがない 情報が不十分で届かない。災害時に 自治会に加入していない世帯には 限られた人への負担が大きい。 救助等に支障が生じる。

訓練の成果・効果(意識の高揚)

80人(住民68人参加者名簿記入)の参加者があり、今 後の訓練について更に積極的参加を期待。

健朗会、子供達は災害時の重要な対策要員となる。

日頃から災害発生時の心構えや防災グッズの準備、家 庭内で避難や連絡方法について話し合いをしよう。



災害は忘れた頃やってくる

防災・減災の基本~ 「自助 共助 ハト 「自助、共助、公助」 自助~自分の事は自分で守る 共助~ご近所は御近助です